



天然木の天井材と壁材の専門メーカー。

テープ状に加工した木材を編み込む伝統的な「網代(あじろ)」の技術を応用し、特殊な製法により強度、加工性等の性能を高めた化粧板「Almajiro(アルマジロ)」を開発。そのデザイン性と品質は国内外で高い評価を得ている。

「第39回 全国豊かな海づくり大会・あきた大会」にて県内の優れた木材加工技術を活用

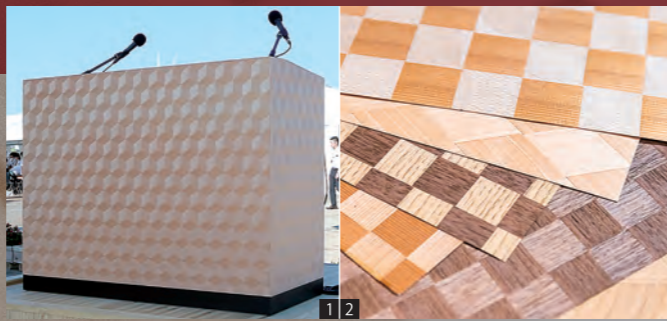
令和元年9月7日、8日に秋田県で「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が開催された。

本大会では「豊かな海は豊かな森が育む」をコンセプトに、県土の7割を森林が占める本県で古来より培われてきた伝統的な技法と最新の木材加工技術が随所に用いられた。

幾何学模様が一際目を引いた司会台には、能代市の株式会社丸松銘木店が開発したツキ板編み込み化粧板「Almajiro(アルマジロ)」が採用され、大きな反響を呼んだ。

「Almajiro(アルマジロ)は、日本の伝統技法“網代(あじろ)”を応用して開発した化粧板です。建材としては主に天井板に使用されてきた網代ですが、当社が開発したAlmajiro(アルマジロ)は、今回の司会台を始め、様々な場所・モノに使用することが可能です」。

国内外で高い評判を得ている同商品だが、現在に至るまで上村茂代表が歩んできた道は決して平坦なものではなかった。



“現状維持は後退である”

かつては「東洋一の木都」とも呼ばれた能代市。この地で上村代表の父が創業した1957年も、街中には木材関連事業者が軒を連ね、連日“木材”の取引が活発に行われていた時代があった。

「当時は、化粧合板の天井板の製造にかかりきりの状態でした。しかし、時代の流れとともに住宅の洋風化が進み、需要は減少の一途でした。私が経営を引き継いだ時にはバブル崩壊の影響もあり、同業社が次々と廃業していきました」。

いくら高い技術と品質を持ち合わせていても、現状維持ではただ後退していくだけ。売り上げは最盛期の1/6まで落ち込んだが、それでも上村代表は諦めることなく、生き残りをかけ、進むべき道を探し続けた。

生き残りをかけた挑戦

「新しいことを始めなければ、生き残れない」。

確固たる決意を固めた矢先、折よく、広葉樹や外材の加工に対応した設備を譲り受けることができた上村代表は、事業の幅を広げて新規顧客を獲得するべく、様々なアイデアをもとに商品開発を進めていった。

「開発途中でとん挫したものや、未だに日の目を見ない商品もあります」と笑う上村代表だが、幾多の挑戦を繰り返した中で3年の月日をかけて開発に成功したのが、2011年に販売を開始した前述のAlmajiro(アルマジロ)だ。その基となった網代という伝統技法は、木や竹などの植物を細く薄く加工したのち、縦横交互に編むものであるが、逆の見方をすれば、極限まで薄く削ったテープ状の木を手作業で織りなす優美な職人技ゆえに、耐久性が極端に低く、建材としては天井板にしか使用できなかった背景がある。特殊な技法で強度と加工性を高めた新素材・Almajiro(アルマジロ)はこの常識を見事打ち破った。



丸めても網目が崩れない上に、塗装や切断加工も容易にできるという優れた加工性だけでなく、高いデザイン性も併せ持ったAlmajiro(アルマジロ)は、2013年に全面リニューアルされた秋田空港国内線ビル2階フロアにもふんだんに使用されており、同年グッドデザイン賞も受賞した。

さらに2014年には、フランス・パリで開催される世界最高峰のインテリアとデザイン関連見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展し、大きな注目を集めた。上村代表はこれを販路拡大の絶好の機会と捉え、フランスで現地社員を採用。現地での信用を高めることで、2016年には高級素材を扱う会社との契約締結にも成功した。

また、「メゾン・エ・オブジェ」で丸松銘木店の技術に感銘を受けたフランス人学生が同社ヘインターンシップに訪れるなど、その知名度は確実に広まっている。

「まずは家具やインテリアの本場であるヨーロッパで高級素材としてしっかりと販路を広げていくこと。ブランド力をさらに強化して、いずれはアメリカやアジアなど、他の地域への進出も視野に入れていきたいと思っています」。



木都で紡ぐ無限の可能性

「Almajiro(アルマジロ)の面白いところは、“編むことのできるもの”であれば木はもちろん、布などとも組み合わせられることです。編む作業はすべて手作業で行っていますので、デザインも無限大であるといっても過言ではありません」。

編み方を変えたり、友禅染めなどの他の伝統技術と組み合わせたりなど、上村代表は常に挑戦の手を緩めない。伝統と新技術の融合で国内外にその名を馳せるAlmajiro(アルマジロ)もまた、村上社長にとっては、あくまでも提案商品のひとつ。主力製品である天然木の化粧合板や不燃化粧板、天井板の製造とともに、地に足をつけた経営計画で未来を見据えている。担い手不足が叫ばれる昨今だが、同社の社員には20代、30代の若手が多く、技術の継承を進めつつ、雇用の面でも地域経済に貢献している。

「今また、時代が変わり自然素材である『木』の良さが再度注目されてきています。今後も市場動向を注視しながら新しい製品を生み出していきたいですね」。

木都で紡ぐ無限の可能性を信じ、積み重ねてきた挑戦。秋田発の日本ブランドを世界に轟かせるべく、丸松銘木店はこれからも歩み続ける。

- 1 放流行事で使用された司会台。「Almajiro(アルマジロ)」で装飾されている。
- 2-3 Almajiro(アルマジロ)は「Akita Lumber Marumatsu AJIRO」の頭文字と柄が動物のアルマジロに似ていたことから命名。
- 4 工場内で手際よく作業をする職人。20代の若手からベテランまで幅広い。



株式会社丸松銘木店

〒016-0844
秋田県能代市花園町7-11
TEL. 0185-52-5514
FAX. 0185-53-4048
<http://www.akita-marumatu.co.jp/>

設立/1957年
●資本金/1,000万円
●従業員数/8名
●営業品目/天然木化粧合板・天然木天井板・天然木内装用羽目板(プロナテ)・天然木不燃化粧板・ALMAJIRO(アルマジロ)の製造・販売

代表取締役社長
上村 茂
うえむら しげる